

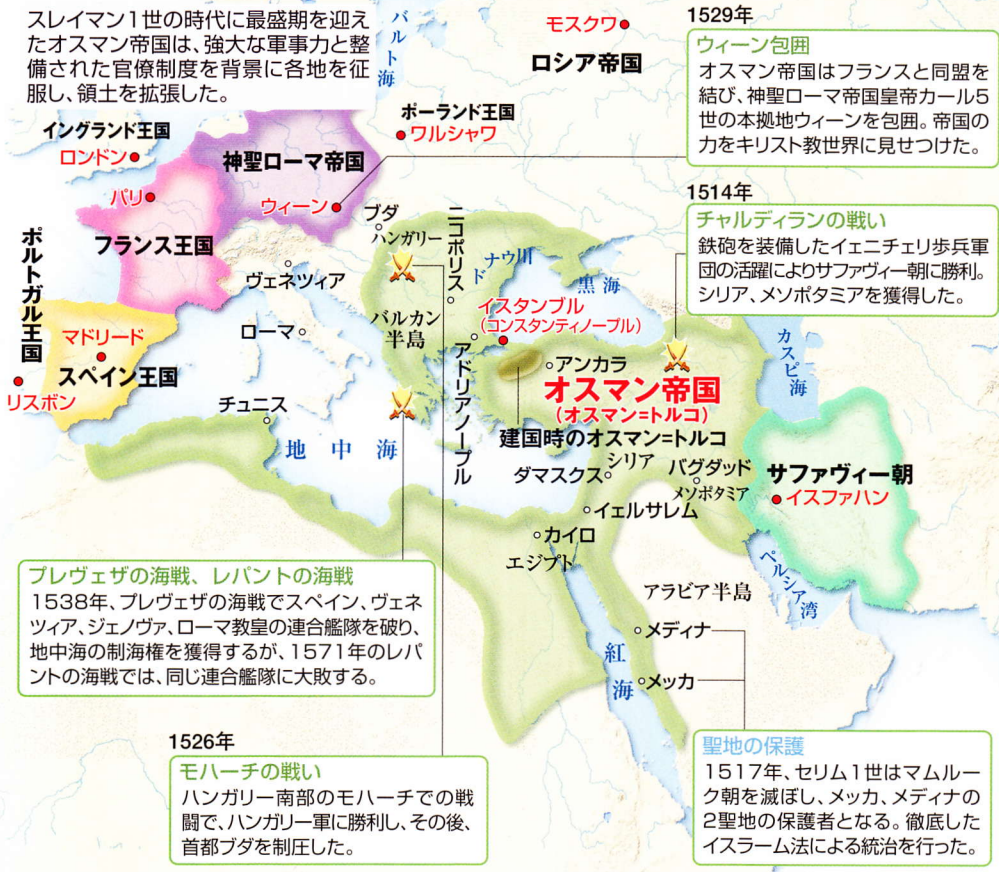
# ヨーロッパにも進出したオスマン帝国



1299年

軍事力と統治制度に優れるオスマン帝国が領土を拡大し、ヨーロッパにも侵攻。キリスト教世界に脅威を与えた。

## 最盛期のオスマン帝国



スレイマン1世の時代に最盛期を迎えたオスマン帝国は、強大な軍事力と整備された官僚制度を背景に各地を征服し、領土を拡張した。

**1529年**  
**ウィーン包囲**  
オスマン帝国はフランスと同盟を結び、神聖ローマ帝国皇帝カール5世の本拠地ウィーンを包囲。帝国の力をキリスト教世界に見せつけた。

**1514年**  
**チャルディランの戦い**  
鉄砲を装備したイエニチェリ歩兵軍団の活躍によりサファヴィー朝に勝利。シリア、メソポタミアを獲得した。

**ブレヴェザの海戦、レバントの海戦**  
1538年、ブレヴェザの海戦でスペイン、ヴェネツィア、ジェノヴァ、ローマ教皇の連合艦隊を破り、地中海の制海権を獲得するが、1571年のレバントの海戦では、同じ連合艦隊に大敗する。

**1526年**  
**モハーチの戦い**  
ハンガリー南部のモハーチでの戦闘で、ハンガリー軍に勝利し、その後、首都ブダを制圧した。

**聖地の保護**  
1517年、セルム1世はマムルーク朝を滅ぼし、メッカ、メディナの2聖地の保護者となる。徹底したイスラーム法による統治を行った。

### 急速に領土を拡大し、地中海を制したオスマン帝国

13世紀末、アナトリアで興ったオスマン・トルコは、14世紀にバルカン半島へ進出、1360年代にビザンツ帝国P72参照から奪ったアドリアノープルを首都とした。さらに96年のニコポリスの戦いでキリスト教勢力を破ってドナウ川以南を征服したが、1402年のアンカラの戦いでティムール帝国に敗れ、一時衰退した。

しかし、ティムールの死後、ティムール帝国が衰退すると、勢力を盛り返し、53年にはビザンツ帝国を滅亡させ、コンスタンティノープルをイスタンブルと改称して首都とした。

第9代スルタン(支配者)のセルム1世はシリア、エジプトを征服し、聖地メッカ、メディナを版図におさめて、聖地の保護者ならびにスンニ派イスラーム教の擁護者としての権威を確立した。続くスレイマン1世の時代に、オスマン帝国は最盛期を迎える。ハンガリー領有、ウィーン包囲に続き、ブレヴェザの海戦で勝利をおさめ、地中海の制海権を握った。

### 帝国の繁栄を支えた統治制度と社会のしくみ

オスマン帝国では、強大な権力を有するスルタンを頂点として、整備された官

僚制度をもつ中央集権体制がとられ、行政区や地方には、高等教育を受けた行政官やトルコ系の騎士を従えた軍政官らを派遣した。軍政官や騎士には、税を徴収できる領地が与えられる軍事封土制をとったほか、キリスト教徒の子弟をイスラーム教に改宗させて、イエニチェリとよばれる常備歩兵軍に編成するなどの施策で、強大な軍事力を支えた。

帝国内にはキリスト教徒やユダヤ教徒も多数いたが、オスマン帝国は異教徒には寛容で、ミットという宗教ごとの共同体を構成させ、納税の義務を課すなどする一方で、信仰・言語の自由のほか、裁判権も認めていた。そのため、帝国内では多民族・多宗教の平和共存が実現した。

### 山を越えたオスマン艦隊

コンスタンティノープルの最後の攻防戦で、ビザンツ帝国は金角湾の入口を封鎖してオスマン軍に抵抗した。そこで、オスマン軍は夜のうちに艦隊を山越えさせて金角湾へ運ぶという奇策をとり、遂にコンスタンティノープルを陥落させた。



Key Word

### イエニチェリ

オスマン帝国の常備歩兵軍。トルコ語で新しい軍の意。征服地のキリスト教徒から選出された少年をイスラーム教に改宗させ、軍事訓練を施した。鉄砲などの火器を備えた近代的陸軍の先駆けともいえる軍隊で、14~16世紀の対外征服戦争で功績をあげた。軍楽隊を初めて本格的に導入した軍隊でもある。1826年、近代化政策により廃止された。